

横浜市指定管理者第三者評価

横浜市野島青少年研修センター

評価シート

横浜市青少年施設指定管理者選定評価委員会

目次

| | |
|--|----|
| 1. 総評 | 3 |
| 2. 団体の状況 | 5 |
| (1) 応募理由 | 5 |
| 3. 職員配置・育成 | 6 |
| (1) 職員の確保、配置及び育成 | 6 |
| 4. 施設の管理運営 | 7 |
| (1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組及び事故防止体制・緊急時（防犯）の対応、防災に対する取組 | 7 |
| (2) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応及び個人情報保護・情報公開への取組 | 8 |
| 5. 事業の企画・実施 | 9 |
| (1) 青少年指導者・育成者研修の支援 | 9 |
| (2) 体験学習プログラムの開発・提供 | 10 |
| (3) 学校教育機関・他の青少年施設・地域等との連携事業の実施 | 11 |
| (4) 地域課題の解決や地域貢献に関する事業 | 12 |
| (5) 利用促進 | 13 |
| (6) 感染症（新型コロナウイルス等）の発生に係る施設運営の考え方 | 15 |
| 6. 収支計画及び指定管理料 | 16 |
| (1) 収支計画及び指定管理料 | 16 |

<評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

1. 総評

| 指定管理者記入欄 | 選定評価委員会記入欄 |
|--|---|
| <p>【取組事項等】</p> <p>令和4年度、令和5年度の2か年間はコロナ禍の影響を受け、利用時間や利用団体の制限を行いながらの事業展開となりました。</p> <p>令和4年度は、主に研修センターが主催するキャンプや教室事業に力を入れ、青少年の体験機会の確保に努めました。</p> <p>令和5年度は5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたことを受け、7月からコロナ前と同じ1日5団体の受入れを可能とするなど、利用制限を解除しました。これに伴い、利用団体も多様な活動が再開できるようになったことから、団体が主体的に活動できるように、活動コーディネートや体験プログラムの提供など活動支援に重点を置き取り組みました。</p> <p>一方で、令和5年10月からビジターホールの天井工事、令和6年2月に給水ポンプの交換工事が実施され、再び利用団体の活動制限を行いました。入退所の工夫や代替案の提案など利用団体との対話に努め活動支援を行いました。</p> <p>このようにコロナ禍や施設工事による活動制限を受けながらの2年間でしたが、利用団体からはご理解をいただくとともに満足度98%以上の高い評価を得ることができています。</p> <p>コロナ対策として実施したオンライン打合せや利用方法の動画配信、Wi-Fi環境の整備などは、利用者の利便性の向上や衛生的環境の確保に繋がっています。また、工事期間中には正面玄関が使えないため避難誘導方法の改善を行うなど新たな安全対策の向上に努めたり、LEDキャンドルを使用した室内キャンドルプログラムなど新規の体験プログラムの開発を行うなど利用者の活動の幅を広げることができました。</p> <p>このような状況も前向きに捉え、常に利用者にとって最適な活動環境を提供できるよう、施設運営や事業実施の工夫に努めることができたと感じています。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という厳しい環境に直面した中でも、オンライン対応やWi-Fi環境の整備などを行うことにより、利便性の向上や衛生的環境の確保に繋げることができている。 with/after コロナの状況下で、職員が一体となり、利用者にとって最適な活動環境を提供できるよう、施設の運営や事業の実施に工夫を重ねてきたことは評価できる。 ・横浜に唯一残る自然海浜という立地特性を活かした多くの体験プログラムや活動コーディネートを提供など、活動支援に重点を置いた取組を展開したことを評価する。 ・令和5年度から近隣における大型バスの乗降が禁止になり、翌年の学校宿泊体験学習の予約が20校も減少した影響は大きいと思うが、日帰りでも参加できる体験プログラム等の提供を積極的に進めてほしい。 ・野島青少年研修センターの持つノウハウを活かし、放課後キッズクラブや学童クラブの職員を対象とした研修等を積極的に進めてほしい。 ・小、中学校の教職員は日々忙しく、児童生徒が楽しめて、なおかつ様々な効果のある体験プログラムを開発したり、検討する時間をもつことは非常に難しいと思われる。そのため、研修センターの閑散期等に、研修センターの職員が持つ知識やノウハウを活かして学校や地域でも実施できるプログラムの開発を行うことを期待している。 ・今後は、コロナ禍によって体験機会が不足している青少年における課題や体験ニーズなどの把握に努めながら、青少年が様々な体験を通じて主体的に活動できるようになるための支援の充実を期待する。また、その際、法人自らが多くを背負い過ぎることのないよう、地元団体や企業、市内活動団体などと多様な連携を行い、体験プログラムの拡充を図っていくことが望まれる。 |

| | |
|--|--|
| <p><令和4年度、令和5年度の運営環境></p> <p>令和4年度（コロナ感染対策）</p> <p>◆令和4年7月コロナ感染第7波感染拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体数1日2団体の制限 ・ビジターホールの利用禁止 ・研修室、厨房、浴室等の利用人数の制限 ・利用時間の短縮 <p>令和5年度（コロナ感染対策および施設工事）</p> <p>◆新型コロナ5類感染症へ移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策のためビジターホールの使用禁止（～5月） ・新型コロナによる利用制限の解除（7月～） ・天井工事のためビジターホールの利用禁止（10月～） ・給水ポンプ工事による休館（2/11～2月18日） | |
|--|--|

2. 団体の状況

(1) 応募理由

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|---|---|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 横浜市青少年育成のための施策及び子ども・青少年や子育てを取り巻く横浜市の特性と当団体の課題認識 | 横浜市青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている | A | B | C | A | B | C |
| 横浜市野島青少年研修センターの管理運営基本方針 | 管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている | A | B | C | A | B | C |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】 コロナ禍や施設工事の影響を受けながらも、青少年の体験活動や指導者育成者の活動を絶やさないために、リアルタイムな情報提供や打合せの回数を増やすなど、利用者の安全に配慮しながら可能な限り青少年の体験機会を確保し、また、指導者・育成者の研修の支援にも努めました。 管理運営基本方針の目標1・目標2に関しては、指導者研修会の開催、映像等による資料提供、事前のプログラム体験を通して、団体が主体的に活動できる支援を行ったほか、すべての青少年が参加できるよう参加者を選ばない多様性を意識したプログラムを提供しています。一方、目標3に関しては、コロナ禍の影響で地域活動やボランティア活動が再開されていないこともあり、地域人材等への積極的なアプローチは十分にはできませんでした。</p> | | <p>【現状の評価】 ・目標とした、指導者・育成者の支援、青少年への体験活動提供、青少年を支援する人や団体の開拓・育成のすべてにおいて、コロナ禍や施設工事の影響を免れることができなかったが、制約のある中で、活動を途切れさせることのないよう、出来る限りの努力が行われていた。 ・コロナ禍の影響で地域活動やボランティア活動が再開されず、地域人材等への積極的なアプローチは十分とは言えない面もあったが、管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されていた。 ・研修センターの果たす役割を踏まえながら、提案書に掲げた3つの目標の達成を目指して事業が実施されていた。</p> | | | | | |
| <p>【今後予定している取組等】 引き続き、研修センターの役割である青少年の体験学習や集団活動の推進を図るとともに、指導者・育成者による研修や活動の充実を図れるように、時代やニーズに合ったプログラム及び情報の提供、利便性の向上に努め、青少年活動の推進に努めます。 管理基本方針の取組みに関しては、徐々に活動が再開され始めている地域団体との連携を図り、体験活動を支える人材を確保しつつ、青少年により多様で楽しい活動の提供と地域人材との交流を推進していきます。そのためにも、研修センターの取組みを地域の人材や団体に理解と認知をしていただけるよう取組みの発信や地域団体との連携に力をいれていきます。</p> | | <p>【改善に向けた提案・意見】 ・施設近隣での大型バスの乗降禁止という課題については、横浜市の協力も得ながら、協力先を確保していくことが望まれる。 ・多様な体験活動の提供については、地域団体に加え、横浜市内の子ども・子育て支援団体、環境活動団体、大学生の活動サークルなど、視野を広げて連携・協力先を掘り起こしていくことなどが考えられる。 ・地域団体との連携を図り、体験活動を支える人材を確保する必要がある。まずは野島青少年研修センターのことについて見識がない方たちが、研修センターの活動に興味・関心を持つことができるような新たな仕掛けができるとよい。</p> | | | | | |

3. 職員配置・育成

(1) 職員の確保、配置及び育成

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|--|---|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 安全かつ効率的な管理運営体制 | | A | B | C | A | B | C |
| 安全かつ効率的な運営を維持する体制が確立している | | | | | | | |
| 人材の確保及び育成について | | A | B | C | A | B | C |
| 職員を確保し、育成、資質向上に取り組んでいる | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>職員・設備スタッフ・清掃スタッフが日々連携を図り、安全かつ効率的な運営に努めています。そのため、設備や清掃に関する利用者満足度は96%を超える評価を得られています。また、体験プログラムを実施する際には、非常勤職員を増員し安全かつ効果的なプログラム運営に努めており、大きな事故・事件が発生することなく運営ができています。</p> <p>職員の確保に関しては、産休・育休、病気療養の職員が発生したため一時的に欠員が生じましたが、施設課長の兼務や昨年退職した職員を非常勤として採用するなど、職員の質を保ちつつ運営に支障がない体制を築いています。また、各職員は平均して年5回以上内外部の研修等に参加し、青少年の理解や体験活動の安全管理に関する知識やスキルの取得に努めています。</p> | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備・清掃に関する利用者満足度が96%を超える評価を得ていることに象徴されるように、職員・設備スタッフ・清掃スタッフが良好な連携を図り、安全かつ効率的な運営を維持する体制が確立していることを評価する。 ・一時的な欠員が生じたものの運営に支障がないようにこの施設を熟知している職員を確保するなど対応できている。 ・職員の育成、資質向上に取り組んでいる点を評価する。 ・安定した職員の確保については、法人本部との一層の連携が求められる。職員に無理のない体制ができるよう期待したい。 | | | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>運営体制に関しては、引き続き、職員・設備スタッフ・清掃スタッフと綿密に連携し、お互いの業務を支え合う関係性を構築するとともに、各担当業務の効率化を図り、常に安全かつ清潔な施設を利用者に提供できるよう努めていきます。</p> <p>職員の一時的欠員の対応に関しては、職員が復帰するまでは引き続き、研修センター勤務経験のある職員の応援や施設課長の兼務、経験ある非常勤職員の配置を行い、運営の質を確保するとともに、現在勤務する職員の負担軽減にも努め、安全で効率的な運営体制を維持していきます。</p> <p>職員およびスタッフの資質向上に関しては、積極的に内外部の研修参加を促し、青少年育成および施設管理における知識・スキルを向上させるとともに、市内外の他施設の見学や情報収集も行い新しい視点や考えを獲得できるよう努めます。</p> | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の一時的欠員は今後も予想される状況であることから、即時の対応が可能となるよう本部のバックアップ体制の確立が望まれる。そのためにも、法人本部との緊密な連携が必要である。 ・職員およびスタッフの資質向上に関しては、積極的に内外部の研修参加を促し、青少年育成および施設管理における知識・スキルを向上させる方針を今後も堅持して欲しい。また、子ども・若者にも直接関わることが多い施設であることから、「子ども性暴力防止法」の知識や情報及び個人情報やハラスメントに係る研修を受講できるとよい。 ・職員1人あたりの夜勤日数が増えていることについて、施設稼働率が高まる来年4月までには、軽減する体制構築が必要である。 | | | | | |

4. 施設の管理運営

(1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組及び事故防止体制・緊急時（防犯）の対応、防災に対する取組

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--|------------|---|--|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 施設の維持管理について | | A | B | C | A | B | C |
| 施設の保守管理、維持管理に取り組むとともに、地球温暖化対策等、環境へ配慮した取り組みを行っている | | | | | | | |
| 事故防止、危機管理等への対応について | | A | B | C | A | B | C |
| 安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じている | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>職員および設備・清掃スタッフによる毎日の館内・外周点検に加え、月1回の施設点検、四半期毎の大規模点検を行い、厨房器具からベッドの梯子の緩み、椅子のガタツキなど詳細に点検を行っています。また、エアコンなど利用者に直接影響のある個所から積極的に修繕を実施するとともに、毎年30か所以上ずつ館内照明をLED化するなど節電・節水に取り組んでいます。</p> <p>安全管理に関しては、毎日の避難経路や消防設備の点検に加え、職員には年2回以上の避難誘導訓練、AED取り扱い講習、感染拡大防止対応など安全や衛生に関する訓練を実施しています。また、防犯対策として、防犯カメラや来客センサーの導入、名簿による入館者チェック、1時間毎のセンター内外の巡回を行うなどの不審者対策を講じ利用者の安全確保に努めています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <p>・職員および設備・清掃スタッフの緊密な連携により、施設の保守管理や維持管理が適切に行われており、地球温暖化対策など環境への配慮も評価されている。建物や空調・配管設備などの老朽化が進行する中でも、行き届いた清掃や設備の更新により、非常に清潔で明るい状態が保たれており、利用者が気持ちよく施設を使えるよう努力していることが評価される。特に、施設を閉館しての一斉清掃日には、厨房内の調理器具なども丁寧に洗浄され、衛生面でも細心の注意が払われている。</p> | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>開設から30年が経過しファンコイルなどの空調設備をはじめ機械類の故障が目立ってきています。大規模修繕に関しては、所管局と協議しながら修繕を進めていく一方、照明のLED化やタイル・壁紙の張替、蛇口の修理などの小規模修繕は、計画的かつ積極的に施設側で対応し、利用者の活動を妨げないよう努めていきます。</p> <p>また、近年、青少年を巻き込む犯罪や事件が増加しているため、これまで以上の防犯対策の徹底と打合せや入所式を通した利用者への注意喚起を強化します。併せて、大規模災害への警戒も高まっているため、改めて災害時の対応や訓練内容を見返し、最新の知識や対策に更新していただけるよう職員の意識向上を図っていきます。</p> | | | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <p>・施設の保守管理や維持管理において、館内照明のLED化や和式トイレの改修を積極的に進めることが求められる。</p> <p>・近年の凶悪な手口での建物侵入犯罪の増加に伴い、防犯意識を強めることが重要である。特に、ビジターホールや建物入口の防犯対策を強化することが求められる。さらに、海沿いの施設であるため、大規模災害時の避難誘導體制の整備や利用者への避難経路・避難場所の説明の徹底が望まれる。</p> <p>・複数団体の宿泊がある日の夜勤体制について、利用者の安全確保のためにサポート体制を万全にする必要があると思う。</p> | | | |

(2) 利用者ニーズ・要望・苦情への対応及び個人情報保護・情報公開への取組

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|-----------------------------------|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| | モニタリングの実施について | A | B | C | A | B | C |
| | 事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている | | | | | | |
| | ご意見・要望、苦情の積極的な受付と反映 | A | B | C | A | B | C |
| | お客様の意見、要望を反映させる体制が確立している | | | | | | |
| | 個人情報保護及び情報公開に対する取り組みについて | A | B | C | A | B | C |
| | 徹底した個人情報保護及び透明性を確保する情報公開に取り組んでいる | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>年度毎の事業は、上半期下半期2回の事業評価を行い、その結果を理事会および評議会にて報告し内外部の役員から評価を得ています。そこで出た意見や改善策は早急に改善を図るほか、次年度の事業計画に反映し事業改善に努めています。</p> <p>利用者の意見や要望の集約は、意見箱やアンケートのほか、事前打合せや活動中または利用終了手続き時のヒヤリングで集約しています。その結果は毎月の職員会議で共有し改善策等を協議します。更に多面的かつ多角的な視点で改善を図るために、法人の管理職会議にて運営状況や課題を共有し協議してから実行しています。また、苦情が寄せられた際も、早急に法人本部および所管局へ報告し対応策を講じていることで、利用者の理解と協力を得られ円満な解決に至っています。</p> <p>個人情報に関しては、研修を通して職員の意識向上に努めるほか、事業参加者と保護者には事前に取扱い説明や承諾取得を行うなど個人情報保護の徹底に努めています。また、利用者からの要望や苦情などの透明性を確保するため、改善策や回答を館内に掲示し情報開示を行っています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとの事業報告では、3つの事業目標ごとに実施結果をまとめ、数値目標と実績値の差異分析や自己評価を行い、次年度への方策を整理している。また、利用者アンケートの要望を受けて地階にWi-Fiを導入し、海外との交流やオンラインスポーツが行える環境を整備するなど、利用者の意見を反映して施設環境を改善している。 ・個人情報保護のため、体験プログラムや教室への参加者が撮影した写真を勝手にネットに上げないよう抑止策を講じている。透明性を確保する情報公開に取り組んでいることも評価できる。 ・事業評価は上半期・下半期に実施し、理事会や評議会での意見を事業改善に反映している点も評価できる。利用者の意見や要望を多様な方法で収集し、迅速に共有・改善する体制も優れている。 | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>利用者の意見や要望・苦情等の集約は、利用者の利便性や匿名性の向上および意見表明がしやすいようにWEBアンケート等の導入を進めます。</p> <p>個人情報保護に関しては、引き続き利用者同士や参加者ならびに保護者にもSNS等を通じた情報漏洩に繋がらないよう注意喚起を行うほか、職員の人為ミスを防ぐために日常的な点検と意識向上を徹底します。また、情報の透明性を向上させるためにも今後は館内掲示だけでなくホームページでの掲示など情報発信の改善を図ります。</p> | | | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の意見欄では、入所時間を早めることや駐車場の確保などの要望があり、これらの要望に対するフィードバックを館内掲示やネットで公開する必要がある。WEBアンケートの導入も期待されている。 ・宿泊体験学習の雨天時対応について、教職員との認識の相違があるため、対処方法の検討が必要である。 ・館内掲示だけでなく、ホームページでの情報発信の改善も図るべきである。 | | | |

5. 事業の企画・実施

(1) 青少年指導者・育成者研修の支援

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|-------------------------------------|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 青少年指導者・育成者等の研修活動の支援のための考え方や方針について | | A | B | C | A | B | C |
| | 事業計画に基づき、青少年指導者・育成者の研修活動の支援に取り組んでいる | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>地域の青少年活動が再開され始めましたが、利用団体の活動感覚が戻っていない状況が見受けられます。また、施設の利用制限もあったため利用に対する引率者の不安も感じられました。そのため、活動行程案や映像による利用方法など明確な情報を提供し、久しぶりの活動であっても安全で円滑な活動が行えるように事前打合せから利用当日まで丁寧に団体の活動を支援しました。その結果利用者アンケートでは、事前打合せの満足度 90%以上、利用目的達成度 95%以上の評価を得ることができました。</p> <p>指導者・育成者に向けた研修に関しては、コロナ感染状況に左右されながらの開催でしたが、「危険予知トレーニング」「キャンドルファイヤ研修会」「プログラム体験会」を計画通り開催しました。研修の実施にあたっては、青少年が対面でも安全で楽しく活動できるようコロナ対策を踏まえた内容にするなど、新しい観点の学びも取り入れました。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体利用の受け入れにおいて、特性に応じた柔軟な対応や滞在スケジュールの提案、宗教上の配慮など、きめ細かな支援が行われている。キャンドルファイヤ研修会や危機予知トレーニング講習会など、青少年活動に必要なスキルや知識を提供する多様な研修が実施されている。 ・青少年活動再開に伴い、活動感覚が戻らない団体や引率者への丁寧なサポートが評価されており、利用者アンケートでも高評価を得ている。指導者・育成者が参加しやすい日程と内容の「プログラム体験会」を継続的に開催することが期待される。 ・利用団体への活動支援や情報提供が評価され、コロナ対策を踏まえた研修内容も評価できる。 | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>団体活動の支援に関しては、初めて利用する団体や初めて引率する指導者・育成者が宿泊利用の一連の流れや体験プログラムの様子が分かるような動画マニュアルの作成と発信に取り組みむなど事前学習等の支援に力を入れていきます。また、施設の体験プログラムを実施した団体には、使用した教材や講話の台本を提供し、学習の効果を高められるよう事後活動の支援にも取り組みます。</p> <p>指導者・育成者向けの研修に関しては、引き続き研修センターの機能と周辺環境を活用しながら、指導者・育成者が実践で活用できる学びの機会を提供していきます。</p> <p>活動をサポートする人材の育成に関しては、コロナ禍が終了し地域活動も再開され始めたので、以前に関わっていた人材への呼びかけや新たな地域人材の発掘を進めていきます。</p> | | | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体活動については、小学校低学年・高学年、中学校、高校で、実施方法や留意点が異なる。指導者・育成者向けの動画マニュアルの作成と発信にあたっては、そうした違いなども勘案しながら、有効に活用できるものに仕立てることが望まれる。 ・体験プログラムを受けた直後の効果と事後活動後の効果の比較ができるような取組みとして、事前学習、実際の体験、事後学習の3点を揃えることを推奨する。 ・活動をサポートする人材の確保と育成にも力を入れることが重要である。 | | | |

(2) 体験学習プログラムの開発・提供

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|--|------------|---|--|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 青少年の体験学習のための考え方や方針について 事業計画に基づき、青少年の体験学習プログラムの開発・提供に取り組んでいる | | A | B | C | A | B | C |
| | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| 【評価の根拠】 コロナ禍のほかに気候変化や異常気象により屋外活動の運営方法等が見直され始めています。提供する体験プログラムでは、安全かつ計画的に活動が実施できるよう暑さ指数(WGBT)などの実施判断基準を設け、団体責任者と綿密に協議して活動を進めています。また、提供するプログラムは、単に「楽しい」だけでなく「協力」「協働」「承認」などの集団活動を通して成長を促すことを目指すほか、活動を通して環境への関心を高める仕掛けを行うなど体験学習の効果を高める工夫をしています。特に「イカダ作り体験」「干潟観察」「ビーチコーミング」といった集団で活動できるプログラムの申込みは多く、コロナ禍の令和4年度のプログラム体験者は10,250人でしたが、令和5年度には21,850人に増加させることができました。 屋外プログラムにおける安全性を確保する取り組みとしては、風力測定、暑さ指数測定、注意報の確認を活動前と活動中に行うほか、イカダやカヌー体験を行う際は、海上保安庁へ事前連絡を行うなど安全管理の徹底に努めています。 | | | | 【現状の評価】 ・「協力」「協働」「承認」などの集団活動を通じて成長を促し、環境への関心を高める青少年の体験学習プログラムに取り組んでいる点を評価する。 ・屋外プログラムの安全性確保のため、暑さ指数に留意し、大量の水を準備するなどの対策が取られていることを評価する。 ・「イカダ作り体験」や「ビーチコーミング」など海浜に立地する特性を活かしたプログラムを通じて、協調性や社会性、環境意識の啓発が図られている。 ・障がいのある児童・生徒や不登校の子どもにも、関係団体と連携してプログラムを提供している。団体責任者との協議を元にプログラムを見直し、現場での判断を重視する対応を評価する。 ・コロナにより体験不足の生徒も多いので、今後さらに体験学習の期待は大きい。 ・今後も安全で効果的なプログラムを提供し続けることを期待する。 | | | |
| 【今後予定している取組等】 提供する体験プログラムに関しては、引き続き安全管理の徹底を図るほか、利用者の意見や感想、ニーズを踏まえ改善に努め、提供プログラムの魅力や活動効果の向上に努めていきます。 また、現在は障がいのある児童・生徒向けの体験プログラムが少なく個別支援級を引率する教員からはプログラム充実への要望があります。そのため、関係者や専門機関等と連携しながら新規プログラムの開発に取り組めます。併せて、熱中症アラート発令時や雨天時等に屋外で活動できない場合でも、室内で環境学習やチームビルディングといった屋外プログラムが提供できるよう改善を図り、提供プログラム全体の充実に努めます。 | | | | 【改善に向けた提案・意見】 ・障がいや不登校などの事情に関わらず、誰もが参加できる「インクルーシブ」な場を創り出し、積極的に発信することが望まれる。 ・障がいのある児童・生徒向けのプログラム開発は長期的な視点で行い、保護者も参加できるプログラムを提供することで、子どもの自尊感情を高めることが期待される。 ・雨天や酷暑で屋外プログラムが実施困難な場合、バーチャル体験に切り替えることで、プログラム中止による落胆を軽減することが考えられる。 ・利用者の意見を反映し、体験プログラムの魅力や効果を向上させることが求められる。 | | | |

(3) 学校教育機関・他の青少年施設・地域等との連携事業の実施

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|----------------------------|--|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 学校教育機関・他の青少年施設・団体との連携や協働 | | A | B | C | A | B | C |
| | 学校、青少年施設、団体等との連携・協働が図られている | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>コロナ禍だった令和4年度は、感染拡大の7波および8波の影響もあり、障がい児対象の野島クリスマスキャンプや外国に繋がる生徒対象のオルタボイスキャンプなど関係団体との連携事業は中止となりました。しかし、令和5年度においては、事業計画どおりに、教育委員会共催の不登校状態にある児童生徒の「ハートフルキャンプ」、青少年相談センターと連携した「若者宿泊体験事業」、市民団体と協働した環境イベント「金澤水の日」など様々な団体や関係機関と連携した事業を展開することができました。特にハートフルキャンプでは、参加前に「不安」と回答していた児童生徒12人のうち11人が終了後には「また参加したい」という回答に変わるなど心の成長を促す機会を提供することができました。</p> <p>また、金沢区青少年指導員協議会と連携した区内の青少年向け夏休みイベントの開催やロータリークラブと連携した青年リーダー研修会の実施など少しずつですが、地域団体と連携した事業も再開し始めています。令和4年度は13団体、令和5年度は22団体と連携・協働した事業を展開することができました。</p> | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類に引き下げられた令和5年度から、中止されていた連携事業が再開され、様々な機関や団体との連携の下、多様な青少年に貴重な体験機会が提供されている。地元団体とのイベントや研修会も再開され、連携・協働先が増加し、ネットワークが広がっている。 ・教育委員会共催の「ハートフルキャンプ」や青少年相談センターとの「若者宿泊体験事業」、市民団体との環境イベント「金澤水の日」など、多様な団体と連携した事業が展開されていることを評価する。 ・地域団体との連携事業が徐々に再開し、令和4年度から令和5年度にかけて共同団体の数が増加している点も評価できる。 ・「すべての青少年」を対象に様々な体験機会を提供、コーディネートできるのはよこはまユースの強みと考える。この強みをこれからも充分活かした事業展開を期待する。 | | | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>市内の青少年野外活動センターとの連携事業や大学と連携したプログラム開発の展開には至っていません。野外活動センターとは、お互いの施設特性を活かした自然体験キャンプ等を企画し実施できるよう協議を進めます。また、大学との連携に関しては、学生がセンターの事業にボランティアで関わることを通して事業改善等に学生の意見を取り入れていきたいと考えています。</p> <p>また、地域連携に関しては、「金沢区子ども食堂すくすく」「ヤングケアラーフェスティバル実行委員会」「はまみらいフォーラム実行委員会」など新たな連携先も増えています。今後も市民団体や青少年支援団体等との連携・協働を積極的に図りながら研修センターだけではできない多様な体験機会を青少年に提供していきます。</p> | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の多様な活動団体との連携も模索していくことが望まれる。例えば、神奈川県「かながわ子ども子育て支援大賞」、横浜市の「横浜環境活動賞」といった表彰制度の受賞団体は公表されており、そうした先のノウハウを活かしたプログラム立案も考えられる。 ・大学生の参画促進については、社会貢献活動を行う大学サークルやゼミに体験プログラムの提案を求め、企画・運営を担ってもらえることが考えられる。 ・野島青少年研修センターの職員だけではアプローチが難しい青少年に対しては、今後、様々な関係団体や専門家と連携しながら、多様な体験機会が提供できるよう事業展開してほしい。 | | | | | |

(4) 地域課題の解決や地域貢献に関する事業

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|--|------------|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| <p>地域との連携・協働について</p> <p>地域との連携・協働により、地域課題の解決や地域貢献が図られている</p> | | A | B | C | A | B | C |
| 指定管理者記入欄 | | | | 選定評価委員会記入欄 | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>令和4年度はコロナ禍ということもあり、地域住民の健康体操教室や敬老会などは開催されず地域活動と連携・協働する機会は減少しました。しかし、地域の防災訓練への参加や年2回の地域ネットワーク会議は実施し、コロナ後の地域防災や地域活動の在り方などの意見交換や情報交換を行いました。このように定期的に地域の方々と顔を合わせ意見交換する機会は研修センターに対する理解を深め、令和5年の大規模修繕の際は、町内の大型車両の通行や工事の騒音などに関して住民への理解と周知をしていただくなどの協力を得られ円滑に工事を進めることに繋がっています。</p> <p>また、地域の貴重な資源である横浜に唯一残る自然海浜「野島海岸」の保全活動では、市民団体活動や近隣の町内会、企業の協力を得ながら、定期的な海浜清掃活動を継続することができています。</p> | | | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で地域活動との連携が減少したものの、地域防災や地域活動の在り方について意見交換や情報交換を行ってきたことを評価する。また、市民団体や町内会、企業の協力を得て、野島海岸の保全のため定期的な海浜清掃活動を継続していることも評価する。 ・地域住民の体操教室や陶芸教室、歌の会などの活動の場所として研修センターを提供することなどを通じ、支援を行っている。 ・大規模修繕に際して地域住民への理解と協力を得ることで、工事の円滑な進行を実現された点は、地域との良好な関係構築の成果といえる。 | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>コロナ感染が終息し、地域活動も再開し始めています。令和6年度には金沢支援学校と連携し生徒の就業体験活動を協働で進めるほか、令和7年度には野島公園(緑の協会)との共催で公園全体を活用した「防災フェア」を実施する計画も進んでいます。研修センターの日々の運営や地域との繋がりが、地域活動の活性化に繋がるよう地域との連携・協働をさらに進めていきます。</p> <p>また、令和5年度からは、地域の健康体操教室の会場や選挙の際の投票所として正面ホールを地域開放を再開しています。引き続き、施設機能を活かして地域活動の支援を行い地域貢献に努めます。</p> <p>自然海浜の保全活動に関しては、近年SDGsの取り組みも盛んになり若者の環境への意識も高まり始めています。そのため、海浜清掃の活動を高校のボランティア部や大学の環境系サークルを中心に広く発信し、海洋ゴミやマイクロプラスチックなどの環境問題を地域の大人と若者が協力して解決していけるような機会を作っていきたいと考えています。</p> | | | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修センターの日々の運営や地域との繋がりが、地域活動の活性化に繋がるよう、地域との連携・協働を進めて欲しい。地元事業者の協力を得て、地域の特性を活かした事業の話の聞いたり、専門技術や知識を活かしたワークショップを開催することが考えられる。 ・自然海浜の保全活動については、横浜市の「横浜環境活動賞」の受賞団体や学校などに連携を呼びかけることが考えられる。大学サークルなどがリーダーシップを発揮し、活動の牽引役となることも期待される。 ・金沢支援学校との連携を端緒に、今後他の支援学校との連携にも広げられることを期待する。 | | | |

(5) 利用促進

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|--|---|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 利用促進・利便性向上に向けた具体策 | 利用促進に資するサービス、快適な施設利用のためのサービス提供や環境づくりに取り組んでいる | A | B | C | A | B | C |
| | | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】 施設の利用方法や体験プログラムの活動の様子について、ホームページを通じて動画や画像で事前に確認できるよう改善を図りました。特に寝具の使い方やイカダの組み立て方の動画を見る団体は多く、「円滑な活動に繋がった」という意見をいただきました。利用当日の入所説明やプログラム説明の簡素化にも繋がっています。 前期指定管理期間の課題でもあった利用者への食事提供に関しては、近隣業者の協力もあり夕食・朝食・昼食ともにすべての利用団体への対応が可能となり、ケータリングや弁当配達を利用する団体が増えています。 また、施設設備の改善に関しては、令和5年度に、利用者ニーズの高かったフリーWi-Fiの設置工事を行い、携帯電波が入らない地下フロア全体で使えるようにしました。設置後は研修室でオンライン活動を行う団体やネット動画を活用した戦術ミーティングを行う少年スポーツチームや高校の部活動などが見られるようになりました。</p> | | <p>【現状の評価】 ・施設の利用方法や体験プログラムの様子をホームページで動画や画像で確認できるようにしたこと、近隣業者の協力で夕食・朝食・昼食とも食事提供が可能になったこと、フリーWi-Fiの設置工事により施設の利便性が向上したことを評価する。これらの改善により、新たな利用団体の開拓が進み、令和5年度の施設利用者数は目標を上回った。しかしながら、プログラム体験数は目標を下回っている。 ・施設近隣での大型バスの乗降禁止により、小中学校の宿泊体験学習利用が減少したことは課題である。</p> | | | | | |
| <p>【今後予定している取組等】 現在、ホームページのリニューアルに向けて法人内でプロジェクトを組んで協議を進めています。ホームページでは分かりやすい施設情報の配信のほか、ホームページ上から利用申請や体験プログラムの申請を可能にするなど利用者の利便性が向上され、かつ、職員業務の効率化に繋がるよう調整を進めています。令和6年度中のリニューアルを目指しています。 また、利用促進においては、近隣で大型バスの乗降ができなくなった不便さをカバーするために、特に宿泊体験学習を行う小学校向けに海の公園を活用した環境プログラムの提供など、離れたバスの乗降場所まで道のりを有効活用できるようなプログラム開発を進めます。さらに、保育園や幼稚園の宿泊体験でも活用してもらえるように、保育園・幼稚園向けの施設案内パンフレットを作成し利用促進を図ります。</p> | | <p>【改善に向けた提案・意見】 ・ホームページのリニューアルや情報発信の取り組みを推進してほしい。情報発信については、単なるイベント発信だけではなく、日常的な出来事や使い方、活動の成果など現場の実態がもう少し発信できるとよい。 ・近隣で大型バスの乗降ができない不便さを早急に改善する必要がある。地域や近隣大学・企業への協力要請を模索し、横浜市の協力も得ながらエリア内での協力先を確保することが望まれる。 ・天候に左右される面はあるが、離れたバスの乗降場所までの道のりで地域資源を活かした自然観察や戦争遺構からの学びなどのプログラム開発にチャレンジしたことについて、小中学校に発信することが期待される。 ・2月、3月の閑散期には大学のサークルや企業研修の利用促進が考えられる。</p> | | | | | |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・Wi-Fi の設置は重要だが、ゲーム障害やネット依存の問題も考慮し、Wi-Fi やスマホが使えない場所が施設の中にあってもよいと考える。また、「オフライン宿泊」が可能な施設として、実施することも考えられる。 |
|--|--|

(6) 感染症（新型コロナウイルス等）の発生に係る施設運営の考え方

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|--|--------------------------------------|---|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| with/after コロナを踏まえた施設運営・事業展開 | | A | B | C | A | B | C |
| | with/after コロナを踏まえた、施設運営・事業展開を行っている。 | | | | | | |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| <p>【評価の根拠】</p> <p>令和4年のコロナ禍では、利用団体を最大2団体までに制限し、宿泊フロアを1階と2階に分けて貸し出したほか、浴室の人数制限や食堂の個別パーテーションの設置、体験プログラムの個別対応化やクラフト材料のキット化など様々な対策を講じ、感染拡大防止に努めました。ただし、イカダ体験など海辺での活動中は、マスク着用による事故を防止するためマスクをはずして活動するよう促しました。</p> <p>令和5年5月にコロナが5類感染症に移行されてからは、コロナ以前と同じように利用できるよう制限解除について所管局と協議し7月にすべての制限を解除しました。しかし、コロナ感染を気にする利用者もまだ多かったため、消毒キットの貸出や館内の換気の徹底、事前の体調確認などは継続しました。また、主催事業においても、事前に健康調査を行い、健康状態の参加基準を設けて参加者の安全確保に努めました。</p> | | <p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響を受けながらも、オンライン対応やWi-Fi環境の整備、感染防止策の徹底により、施設運営と事業展開を続けたことを評価する。令和5年5月のコロナの5類移行後も、感染防止や安全確保に努めている点も評価する。 ・利用者の行動や気持ちがすぐにコロナ前に戻らない中、施設運営・事業展開などにおいて苦勞したことが想像されるが、団体が安全に活動できる環境を提供した取り組みを評価する。 ・宿泊施設として、利用者が安心して利用できるよう徹底した対応が行われたことも評価する。 | | | | | |
| <p>【今後予定している取組等】</p> <p>コロナ禍で実施した感染症予防に関する取組は、ノロウイルスなどの他の感染症の予防にも通じるため、予防に関する注意喚起、発生時の対応、危機管理体制は継続して実施していきます。併せて、コロナ禍で確立されたオンラインによる打合せや相談対応に関しては、特に学校の教員や遠方の利用者からはニーズが高いため改善を図りながら対応を継続するとともに、オンラインを活用したサービスやプログラム開発にも力を入れ利便性向上や活動の充実を図っていきます。</p> <p>一方で、コロナ禍で青少年の集団活動やリアルな体験の機会の必要性が高まりました。そのため、研修センターが提供する体験プログラムは、青少年を育むための重要な機会であると捉えています。個人活動では体験できない仲間との「協力」「協働」「承認」といった考えや行動を育めるよう、プログラムの「ねらい」「効果」を日々検証し、より多くの青少年に集団活動を通じた育ちの機会を提供できるよう努めていきます。</p> | | <p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる打ち合わせ相談やサービス、プログラム開発の拡充が望まれる。特にオンライン手法やWi-Fi導入は、リアルで参加が難しい指導者・育成者や青少年にも知識や疑似体験の場を提供するのに有効であり、新たな利用者層の促進にも繋がるため、今後も効果的に活用することが望まれる。 ・野島青少年研修センターが提供する体験プログラムは青少年を育む重要な機会であり、コロナ後も積極的に提供することが期待される。コロナ禍で体験機会が失われた青少年に係る新たな課題や体験ニーズを把握し、青少年が主体的に活動できるよう支援の充実を図ることが求められる。 ・新型コロナウイルスの影響が続く場合の事業展開の検討案は、研修センターの閑散期にも活かせると考えられる。 | | | | | |

6. 収支計画及び指定管理料

(1) 収支計画及び指定管理料

| 評価項目・評価基準 | | 指定管理者記入欄 | | | 選定評価委員会記入欄 | | |
|---|--|--|---|---|------------|---|---|
| | | 評価 (A・B・C) | | | 評価 (A・B・C) | | |
| 第4期指定管理での利用者目標 利用者人数について、指定期間の達成目標に対し、順調に推移している | | A | B | C | A | B | C |
| 収入増の取組と支出計画 安定した収入源の確保と安全性・効率性を重視した支出により、計画通り収支が推移している | | A | B | C | A | B | C |
| 指定管理者記入欄 | | 選定評価委員会記入欄 | | | | | |
| 【評価の根拠】 提案書における宿泊利用者人数の目標は、令和4年18,360人、令和5年19,405人でした。結果として令和4年は12,116人(達成率65.9%)、令和5年度は15,492人(達成率79.8%)でした。目標達成には至りませんでした。令和4年度のコロナ禍による利用制限や令和5年度の工事等による利用制限があったことを踏まえると概ね順調に推移していると考えています。 収入に関しては、人件費および物価高騰による体験プログラム費の見直しや宿泊利用日の空室を少人数団体にも貸し出すなど収入の確保に取り組みましたが提案書見込額には未達でした。 支出に関しては、人件費や物価の急激な高騰の影響を受け総合管理委託費が前期に比べ300万円ほど上昇していますが、日常清掃の効率化による清掃委託費の抑制や省エネ機器の導入による光熱水費の抑制に努めています。 令和4年度は人事体制により人件費が増加し、収支バランスが不安定となりましたが、令和5年度から体制を見直し、収支バランスの取れた支出状況に改善を図りました。 | | 【現状の評価】 ・宿泊利用者数について、令和4年度のコロナ禍や令和5年度の工事实施により目標に達しなかったが回復傾向にある。また、目標未達になった他の要因として、施設近隣での大型バスの乗降禁止という指定管理者の努力の及ばない事項が大きいと考える。 ・施設利用者数、キャンプ・教室参加者数、事業に関わったボランティアの人数について、コロナが5類に引き下げられた令和5年度の実績値は、目標値を上回っている。 ・収支については、令和4年度は赤字計上となり、令和5年度はわずかな黒字計上となったが、まだ安定した採算状態には至っていない。収入面については、利用者数の落ち込みをカバーする取り組みがなされたが、提案書見込額には未達であった。また、支出増加に対しては、日常清掃の効率化や省エネ機器の導入により、清掃委託費や光熱水費の抑制に取り組んでいる点を評価する。 | | | | | |
| 【今後予定している取組等】 引き続き、宿泊利用の促進による利用料金の増収を図るとともに、体験プログラムの推進による事業収入の確保にも努めます。一方で、青少年が体験するプログラム参加費が高騰し、参加できる青少年が限定されないように、例えば、地域の青少年活動が落ち着く1月・2月の平日に、大学ゼミ合宿(1人1,200円)や一般企業の宿泊研修(1人2,400円)の利用を積極的に誘致し利用収入の増収を図るなど、増収分を青少年の体験プログラムに還元できるよう取り組んでいきます。 | | 【改善に向けた提案・意見】 ・事業収支改善のためには利用料金収入、自主事業収入の増大が必要であるが、自主事業は収入と経費の差額があまりないため、宿泊利用の促進による利用料金収入アップが重要課題である。今後予定している大学の春合宿や企業の研修合宿の利用促進に期待する。 ・野島青少年研修センターは社会活動の担い手でもあるため、活動資金の獲得としてクラウドファンディングを収入増の選択肢の一つとして検討することができると思う。 | | | | | |